

「ろうきん森の学校」新潟地区開校式が開催されました

「森を育む」・「人を育む」・「森で遊ぶ」を活動の柱として、富士山・福島・広島の全国3地区でNPO法人や地域とともに活動を展開してきた「ろうきん森の学校」が10年間の第Ⅰ期事業を終え、今年から新たに新潟・岐阜の2地区を加えた5地区で第Ⅱ期事業（10ヵ年）が始まりました。このうち、新潟地区の開校式が2015年5月17日に開催されました。

新潟地区の活動拠点は、南魚沼市の辻又集落、人口40人の集落です。上越新幹線浦佐駅から車で15分ほどのところに「ろうきん森の学校」の看板が設置されています。そこから車でさらに5分ほどの廃校になった小学校の体育館で開校式が行われました。

冒頭、この地区を担当するNPO法人魚沼伝習館の坂本恭一理事長から、自分の考えている地域づくりと合致したろうきん森の学校の理念の下で、子供たちの体験・環境学習の場づくりとともに、山の整備を行い、山菜や除間伐材等の活用で地域経済の基盤づくりをしたいと挨拶がありました。続いて、本会中江公人理事長が〈ろうきん〉としてしっかり支援していきたいと抱負を述べ、さらに全国事務局を担うNPO法人ホールアース研究所の山崎宏代表理事がろうきん森の学校は10年間の支援が約束されているところが他の企業からの援助と違う特徴であり、他の4地区と情報交換しながら良い活動にしてほしいと挨拶がありました。

引き続き開催された交流会では、新潟県労働金庫の江花和郎理事長が乾杯の音頭、南魚沼地域振興局農林課長および南魚沼市農林課長から祝辞があり、地元辻又集落の区長さんから閉会の挨拶がありました。その場では、地元のご婦人方が採れたてのいろいろな種類の山菜をその場で天ぷらにしてもてなしてください、また、辻又集落の方々が多数参加されていたことから地元のろうきん森の学校に対する期待の大きさが伝わってきました。



ろうきん森の学校の活動フィールドで
関係者の記念撮影



中江理事長挨拶